

# この人たちが、 これから歩いていく道を 整えなければ

「多摩草むらの会」の事業を、一言でまとめるのは難しい。いくつもの事業所があり、そのそれぞれが全く異なる事業をしていて、そのどれもが高い収益を上げ、あるいは地域で必要とされている。しかし、代表の風間美代子さんに話をきくと、「多摩草むらの会」が、ただ利益や規模の拡大を目指しているのではないことがわかる。



体力も気力もついて、いろんな仕事をやりたくなった、という人には、そのための仕事がある。調子が悪く、あまりきつい作業はしたくない、という人にも、できることはある。

## 利用者は、 スタッフにも、講師にもなれる

「夢像(ゆめぞう)」は、東京・八王子にある松が谷団地の中、商店街の空き店舗を利用してつくられたパソコンサロンだ。何十台ものパソコンの前で、利用者がパソコンの使い方を、それぞれのペースで学んでいる。ワード、エクセルの使い方学んでいる人もいれば、HTMLを学

ぶ人もいる。システム構築の経験がある人は、高度な言語を独学で学んでいる。ここで学んだ技術を生かして就労に結びつける利用者もいれば、地域の高齢者などを対象にしたパソコン教室の講師として活動する利用者もいる。利用者から「夢像」のスタッフになる人もいる。スキルを身につけた利用者には、それを生かす場所が用意されている。

## おいしいまんじゅうと、 本格派のカフェ

京王堀之内駅の近くには、「まんじゅう屋 遊夢」がある。「夢畑」でとれた大豆を使った「大豆あん」が特徴

の、大きなまんじゅうが名物。製菓の確かな技術が評価されて、銀座の人気和菓子店「銀座かずや」とのコラボプロジェクトにおいて、東京・青梅のゆずを加工し、ジャムにする作業を担当することができた。

コリア多摩センターの六階には、レストラン「畑 de きつちん」がある。飲食店街の一角に、他の飲食店と並んで、自然食を中心としたメニューが特色のカフェを構える。「森」をイメージしたという、木と緑に覆われた、A型事業所とは思えないような本格的な内装。素材は「夢畑」でとれた作物が中心。野菜の販売もしている。利用者は、

## できる人もできない人も それぞれの仕事を

京王堀之内駅から徒歩で三〇分ほど。多摩地域の里山風景がいまも残る、まさに夢のような場所が「夢畑(ゆめばたけ)」だ。ここが東京か、と思うばかりの、のどかなで緑深い場所。里山の中には小川が流れ、季節になるとホテルの姿も見ることができるといふ。

この日も、何人も障害者が働いていた。ある人は畑の草むしり。またある人は、ハウスの中の菌床しいたけの世話。あちらこちらに生えているハーブを摘んでいる人もいるし、山野草を摘んで、テールフラワーにする役目の人もいる。

お昼前になると、ワゴン車がやってくる。B型事業所「遊夢(ゆうむ)」でつくられたお弁当が配られる。ぶどう棚の木陰につくった休憩所で、みんなでお弁当を食べる。ここでは、それぞれがそれぞれのペースで作業をする。体力がある人は、太陽の下で汗を流す。陽の光が苦手だ、という人は、ハウスの中で、しいたけの世話をすればいい。通っているうちに



風間美代子さん(写真左)